

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年4月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600017		
法人名	有限会社 モリ・ケア・サービス		
事業所名	グループホーム いわまの郷	ユニット名	Aユニット
所在地	〒319-0202 茨城県笠間市下郷6004-1		
自己評価作成日	平成25年9月16日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0891600017-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年10月29日	評価機関 決 済 日	平成26年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

季節の行事を積極的に行い、利用者様と職員が共に季節や自然を感じ、明るく笑顔を大切にして家庭的な生活が送れるよう日々の介護に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は広々とした田園に囲まれた場所に立地しており、利用者は四季折々の自然の移ろいを感じながら生活している。
職員は感染症予防啓発などの健康管理に関する目標を毎月作成して玄関に掲げ、誰もが確認できるようにしている。
居間の壁面には利用者が家庭的な雰囲気の中で安心して暮らしている様子がうかがえる行事の記録写真が飾られている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念に基づき、理念を共有し実践に繋げている。毎月の目標に掲げているサービス理念も実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成して玄関に掲示するとともに、職員は採用時の研修会や月1回の会議で理念を確認し、共有して利用者が地域の中で生活ができるよう支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外部からの出入りは自由で近所の子供たちが気軽に立ち寄れる。地域のボランティアの方々の協力を得ている。	通学途中の小学生がトイレを借り立ち寄るなど、日常的に地域の人々と交流している。 月2回傾聴ボランティアが来訪しているほか、2ヶ月に1回折り紙教室の講師を招き、利用者と地域の人々が楽しみながら交流ができるように努めている。 事業所が開催する夏祭りには民生委員などの近隣住民を招いているほか、地域の秋祭りには獅子舞に立ち寄ってもらうなど、利用者が地域の人々と交流ができるように支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域介護の拠点として介護相談を受け入れる体制を整えていきます。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、元民生委員などの参加を得て開催し、利用者の状況や事業所の取組みを報告している。	運営推進会議は利用者及び家族等の代表や市職員、地域住民、民生委員などで2ヶ月に1回開催し、時には事業所の行事に合わせて開催することもある。 会議では利用者の心身の状況やサービスの内容を報告し、委員から出た意見や課題の改善に向けて話し合いをしている。 会議で出た意見を基に、災害時の職員に対する緊急通報システムの見直しを図ることにより、職員の携帯電話に連絡が行くことで少しでも早い避難の支援体制を構築している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市担当者に事業所の状況を伝えている。また、市主催の介護保険利用調整会議に出席している。	市の地域包括支援センターから利用相談を受けているほか、市担当者が3ヶ月に1回事業所を訪問し、利用者の生活状況を確認したり、相談に応じてくれたりしている。 職員は市主催の研修会及び会議に参加するとともに、事業所の取組みを伝えるように努めるほか、書類作成などの支援を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成したり、日々の業務や会議の中で身体拘束をしない取組みを常に話し合っている。	管理者は身体拘束をしないケアに関するマニュアルを整備するとともに、内部研修において身体拘束の具体的な事例を取り上げて伝えるなど、全職員が正しく理解ができるように努めているほか、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、会議や日頃からの話し合いで虐待に対する知識を学び、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議において学ぶ機会を持ち、利用者様の必要に応じて活用できるように支援している。現在1名の方が利用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書について丁寧に、わかりやすく説明している。利用料、急変時の対応など特に詳しく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会の際には、利用者様の状況を報告し、ご家族様の要望や意見を聞き取っている。意見について、会議等において話し合いケアの実践に反映させるように対応している。	利用者からの意見や要望は日々のケアの中で本人から直接聞き取り、利用者から出た外出先の要望や意見等を受けて運営に反映させている。 家族等の意見や要望は事業所に訪れた際に聞き取るように努めており、「日頃の食事内容を知りたい」との声を受け、居間兼食堂の壁面に行事や外食時の食事内容がわかるように写真を掲示している。	事業所を訪れることが困難な家族等からも、平等に意見や要望を聞く機会を設けるため、家族アンケートなどの取り組みを行い、出た意見等を運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の会議の中で、一人一人にケアに関する意見や意向を集めたり、提案書を書いて頂いております。	管理者は月1回の会議において、職員から意見や提案を聞く機会を設けているほか、話しづらい内容でも意見が出せるように提案書に記入し、提出ができる仕組みを構築している。 職員から出た意見等を受け、節電対策担当者を決めたり、浴室と脱衣所の介助者を分担するなど入浴手順の改善を図ったりするなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務体制を維持し、職員の資格所得により、給与水準の見直しを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が外部研修に参加出来る様に促し、また、施設会議の時間を活用し勉強会などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	笠間市主催の連絡協議会に参加したり、社協の行事に参加し、施設間の交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の入居利用の段階で、生活歴や身体状況を把握した上で、お話を聞かせて頂き不安なこと困っていることがないか耳を傾け、信頼関係を築き安心して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があった場合、家族がどんな事に困っているのか、家族の希望や要望を伝えやすい状況をつくり、それらを把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	求めているサービスは何かを理解し支援させて頂き、必要に応じ他のサービスを含め検討させて頂く。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状況を把握し、これまでの生活を活かして出来る事や得意なことは、共に行ったり教えて頂き、日常生活を実感してもらうように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様に、利用者様の状況、体調などこまめに報告させて頂く事で、家族とのコミュニケーションを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人などの訪問を受け入れたり、御家族との外食や外泊など、特に制限なく御本人、御家族の意思を尊重している。	職員は入居時のアセスメントにおいて、利用者のこれまでの生活歴を把握するように努めている。 家族等が訪ねてきており、利用者は楽しく歓談しているほか、家族等と自宅へ外泊や外食に出かけている。 利用者が家族等に電話をかけたい場合にも職員が支援しており、利用者がこれまで大切にしてきた人との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を行い利用者様同士が交流出来る機会を作り、日々の生活においても、必要に応じ職員が間に入り、交流出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了して、在宅に戻ったり施設に入所されたりした方でも、何か困り事があれば、いつでも相談頂ける体制は整っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の利用者様がどのように生活したいのか、希望や意向を把握できるように、日々の会話などから読み取れるように努めている。	職員は介護日誌に把握した利用者一人ひとりの思いや意向を記録して職員で共有を図り、利用者本位のサービス提供に努めている。 利用者の言葉にならない思いなどは、日々の支援の中で表情や態度から把握するよう努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家庭訪問をさせて頂き、今までの生活スタイルや本人の趣味や好みなどの情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の1日の過ごし方や行動パターン、バイタルチェックなど様子などを注意深く観察し把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、現状に適した介護計画を作成している。	介護計画は日々の介護記録を基に、利用者や家族等の意向を確認しながら作成しているほか、3ヶ月に1回モニタリングを行い、必要な場合には要介護認定の区分変更申請代行の支援とともに、利用者の心身の状態にそった介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の過ごし方、夜間の様子、健康状態などを毎日個別ノートに記録し、職員間で共有出来るようにしている。それをもとに、職員間で話し合い、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、御本人や御家族などの意向を聞かせて頂き、一人一人にあったサービスが提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの協力を得、傾聴ボランティアや折り紙などの指導者などを招き、楽しみを持った生活を過ごして頂ける様に支援させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医療機関受診を行い、利用者様に安心して頂いている。また、受診時には家族等に連絡し状況の把握をして頂く様に支援している。	全利用者とは家族等の同意を得ながら職員が月1回協力医療機関の内科通院の支援を行っている。 その他の医療機関にかかる場合は家族等に支援を依頼しているほか、家族等が付き添えない場合には職員が対応し、受診結果は電話で家族等に報告している。 家族等と受診する場合には、職員は日頃の様子を家族等に伝え、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調に関しては、常に看護職員との情報を共有し適切な対応が出来るように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に正確な情報を伝え、利用者様の入院時の状況なども医師や看護師と情報交換し把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてのマニュアルを作成し、家族との話し合いの中で方針などを確認して頂き同意した中で支援させて頂いております。	事業所は看取り介護は行わない方針であり、重度化や終末期の対応方針の文書を作成するとともに、利用者や家族等に説明し、契約時に同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化してあり、また発生時に慌てない様に目の届くところに掲示してある。施設内で実際に訓練等実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対し避難方法など避難訓練を行い身につけると共にマニュアルも作成してある。職員の役割についても話し合いを持っている。避難訓練において、地域の民生委員の方や近隣の利用者家族に参加頂いている。	火災及び地震災害を想定した避難訓練を年1回実施するとともに、実施記録を作成して課題を明らかにし、次の訓練につなげている。 前回の外部評価の提案を受け、運営推進会議の委員である地域住民の協力を得ながら避難訓練を実施している。 米やビスケット、飲料水、ロウソク、乾電池、懐中電灯、毛布等を備蓄しているが、リストを作成して管理するまでには至っていない。	想定される全ての災害時に、昼夜を問わず避難ができるよう、年2回以上の避難訓練を実施することが望まれる。 備蓄品の在庫管理を容易にするために、消費期限や在庫数を記載した備蓄品のリストを作成することを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念の通り、尊敬と共感を持ち一人一人の人格や誇りをもった支援をしている。	職員はアセスメントにおいて利用者の生活歴を把握するとともに、利用者の人格を尊重するためにやさしく声をかけたり、排泄や入浴を促す時には耳元で声をかけたりするなど、配慮をしている。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかる机の引き出しに保管するとともに、管理者は全職員と守秘義務に関する誓約書を取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中においては、利用者様の自己決定を尊重し、思いや希望を引き出せるような言葉かけや支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の好みや暮らし方、生活のリズムを把握し本人の希望にそった生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや更衣はお手伝いさせて頂き、本人の好みや愛着のある物など尊重し支援している。定期的な訪問散髪にて整髪している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど、家事手伝いが可能な利用者様には、職員と一緒にコミュニケーションを図りながら楽しく行っている。	利用者は食事の準備や後片付けなど、できることは役割を担って取り組んでいるほか、毎月家族等と一緒に事業所内で開催している料理教室で、おやつ作りなどを楽しんでいる。 食材は外注して配達してもらい、自家菜園の野菜も食材に取り入れて季節感のある食事を作っている。 職員は利用者と一緒と同じ食事を摂りながら楽しく食事ができるように支援しているほか、年1回レストランで食事会を開催している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を介護日誌に記録し毎日の摂取状況を確認している。また、状況に合わせて刻み食やトロミをつけるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、出来る所は本人にやって頂き、出来ないところは職員と共に行い口腔内の清潔に努め支援させて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し定期的なトイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄のタイミングを計りながら、トイレで自立した排泄ができるような声かけと介助に努めている。 トイレは車いす対応で広く、可動式手摺も設置されており、介助が必要な状況でも排泄の自立に向けた支援ができるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握し、便秘の予防に努めている。水分補給を促し、毎日のラジオ体操やレクリエーション等で体を動かす機会をつくり便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は基本、月・水・金となっているが、その時に応じこの曜日以外での入浴も行っている。	週3回入浴ができる体制を取り、利用者の心身の状態や入浴時間の希望にそって支援している。 入浴に対して負担等を感じている利用者でも入浴を楽しむことができるように、一人ひとりに合わせた声かけを工夫するとともに、ユニット毎に浴槽のタイプや窓から見える風景が違うことを活かし、利用者が入浴する際には浴室を選べるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況に応じ、日々の生活の中で夜間の睡眠に影響しない範囲で、昼寝や休息を取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服薬については薬剤情報ファイルで管理し、内服薬の変更があった場合は連絡ノートや申し送りで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の以前の生活を活かし、その人にあ会った役割や好きなこと、得意なことを日々の生活に活かし喜びを感じて頂く様に支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気により、散歩や日光浴など体調に考慮しながら楽しんでいる。また、ホームない行事にて季節を感じ楽しく出かけられるように支援している。	職員は利用者が日常的にデッキでの外気浴や事業所周辺の散歩ができるように支援をしているほか、外出の年間計画を作成し、普段は行けないような初詣や花見、公園などへ出かけられるように支援をしている。 個別の要望に対しては、家族等の協力を得ながら買い物に出かけたり、自宅に帰ることができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かりしているお小遣いの中から、本人の希望に応じ家族や職員同行のもと買い物など出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話の取次ぎ、電話を掛けることも出来る。また、手紙のやり取りなども出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共用スペースには、季節感を取り入れた装飾を心がけ、利用者様と一緒に雰囲気を楽しめるように対応している。	居間兼食堂は天井が吹き抜けになっており、天窓が設置され、自然光が差し込む明るい空間となっている。 玄関や廊下、居間兼食堂には、利用者職員が季節をテーマに制作した折り紙の作品が飾られており、居心地よく過ごせる空間づくりをしているほか、空気清浄器や加湿器を配置して感染症予防に配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、ソファや椅子を置き、自由に座ったり、ゆっくりくつろげるスペースを確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人の希望を取り入れ、なじみの物や使い慣れた身の回りの物を持参して頂き、安心して過ごされるように支援している。	職員は家族等と話し合い、利用者が自宅で使い慣れた布団や枕のほか、テレビ、ダンス、時計などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 利用者は家族の写真やカレンダー、鉢植え、自分で制作した押し花の額入り作品などを飾り、自分らしい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等にわかりやすいように名札を掲示し、出来ることは必要以上に介入せず温かく見守り、自立した生活が送れるように支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム いわまの郷

作成日 平成26年4月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	事業所に訪れた家族等からは意見や要望等を聞き取り運営に反映させているが、事業所に訪れることが困難な家族等からの意見等が聞き取れていない。	事業所に訪れられない家族等からも意見等を聞き取れるように取り組む。	家族アンケートなどを郵送で送り意見等を聞かせて頂く。また、電話連絡の際に意見等を聞かせて頂き運営に反映させる。	平成26年9月から実施予定
2	35	火災や地震災害を想定した避難訓練は行っているが、年2回以上実施するまでは至っていない。	平成25年度には年2回6月と12月に避難訓練を実施している。	今後も引き続き年2回の避難訓練を実施いたします。	平成26年6月と12月に実施
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。